



鈴木CEO

五十鈴グループは14日、有楽町のよみうりホールで恒例の社員総会を開催した。グループ会社や株主関係者765人が参加した。

冒頭は、今期のキーワードとなる「志」をテーマとして「あなたの志は？」の問いに答える社員らの映像が映し出され、会場を盛り上げていく。

青木達也氏（小山SSC）、木村葵氏（富士SSC）の両司会者が登場、続いて鈴木勝CEOが開会挨拶を行った。「今年からグループになった浜松鋼板加工がこの社員総会に参加してくれている。新入社員の人たちも今年が初参加だ。初めての方が多くなか、ブランドパワーの本質、真の価値をいうものと考えてみて欲しい」と話した。五十鈴グループはSociety X 10年ビジョンのステップの期間を迎える。五十鈴というブランドパワーの追求を掲げ、その源である「志」を追求することにこの総会は主眼を置いている。

鈴木CEOは就任以来、人事制度や組織のあり方を見直し、個々の社員の可能性を伸ばすことに腐心してきた。昨年から表彰においても個人に焦点を当てた賞を増やした。表彰の種類は全部で20種類に及んだ。今回から新たに設けた賞もある。コメントを求められた社員はそれぞれの仕事に対する想いを述べ、共に取り組んだ仲間に感謝の意を示した。社員は1年間取り組んできたものをかみしめながら話した。

2024年度のMVCについては五十鈴東海・安城SSCが受賞した。安城SSCからは「いろいろな拠点に応援をして頂いた」「五十鈴東海としての表彰と言ってもいい」「とにかくナンバー1をひたすら目指し取り組んだ」など感想があった。中でも心強い言葉は「ここでは止まらない。五十鈴だけでなく、業界の中でナンバー1になる」だった。

続いて、五十鈴のブランドパワーの変遷として、魅せる工場づくりに取り組んだ1990年代、魅せる組織づくりの00年代、魅せるショールームの10年代、ISSXで創発の20年代が紹介された。コイルセンターからサービセンタールなり、独自性を活かしたバリューセンターへと進化していく様子がかがえた。

第二部は新たなブランドパワーの追求や五十鈴今昔物語（会場全

「ブランドパワー本質見極め追求」(鈴木CEO)

社員の志を余すことなく表現

五十鈴グループは14日、有楽町のよみうりホールで恒例の社員総会を開催した。グループ会社や株主関係者765人が参加した。

冒頭は、今期のキーワードとなる「志」をテーマとして「あなたの志は？」の問いに答える社員らの映像が映し出され、会場を盛り上げていく。

青木達也氏（小山SSC）、木村葵氏（富士SSC）の両司会者が登場、続いて鈴木勝CEOが開会挨拶を行った。「今年からグループになった浜松鋼板加工がこの社員総会に参加してくれている。新入社員の人たちも今年が初参加だ。初めての方が多くなか、ブランドパワーの本質、真の価値をいうものと考えてみて欲しい」と話した。五十鈴グループはSociety X 10年ビジョンのステップの期間を迎える。五十鈴というブランドパワーの追求を掲げ、その源である「志」を追求することにこの総会は主眼を置いている。

鈴木CEOは就任以来、人事制度や組織のあり方を見直し、個々の社員の可能性を伸ばすことに腐心してきた。昨年から表彰においても個人に焦点を当てた賞を増やした。表彰の種類は全部で20種類に及んだ。今回から新たに設けた賞もある。コメントを求められた社員はそれぞれの仕事に対する想いを述べ、共に取り組んだ仲間に感謝の意を示した。社員は1年間取り組んできたものをかみしめながら話した。

2024年度のMVCについては五十鈴東海・安城SSCが受賞した。安城SSCからは「いろいろな拠点に応援をして頂いた」「五十鈴東海としての表彰と言ってもいい」「とにかくナンバー1をひたすら目指し取り組んだ」など感想があった。中でも心強い言葉は「ここでは止まらない。五十鈴だけでなく、業界の中でナンバー1になる」だった。

続いて、五十鈴のブランドパワーの変遷として、魅せる工場づくりに取り組んだ1990年代、魅せる組織づくりの00年代、魅せるショールームの10年代、ISSXで創発の20年代が紹介された。コイルセンターからサービセンタールなり、独自性を活かしたバリューセンターへと進化していく様子がかがえた。

第二部は新たなブランドパワーの追求や五十鈴今昔物語（会場全

体で楽しむクイズ）などが行われた。鈴木CEOは、五十鈴の志として、社訓や行動規範、創業者精神などについて触れながら、五十鈴グループにとつてのBHAG（現状を打破する野心的な目標）を語った。鈴木CEOは「生きがい、やりがい、働きがいを楽しく創るビジョナリーカンパニー」だとした。目指す姿は社会に必要とされる事業を生み出す、人材開発ができる経営だとする。

このあとはSS部門、LG部門、SL部門、LS部門それぞれのメンバーがそれぞれの立場に置けるBHAGを紹介した。SS部門のBHAGは「トレンドを先取りしたALWinWinサブライチエーンで業界の幸せをリードする」。相手の懐に飛び込み、あらゆるシーンにマッチした多彩なリソースを連鎖的に提供し続け、挑戦に向かう仲間づくりができることを目指す。LG部門のBHAGは「多彩な力を結集し、物流業界で働くことに夢と誇りをもてるような働き方改革で業界の未来を切り開く」。そのために顧客からパートナーへ、ライバルから同志へのパラダイム転換が必要となるという。SL部門は「世界を舞台につなぐをつくるデータ・ソリューションカンパニー」。成長シナリオをデザインでき、新たなコミュニケーションを形成できることを目指す。LS部門は「建物ライフサイクルを創造し、世の中の人と幸せをつなぐ日本一輝く企業」。互恵関係がある仲間が増え価値の連鎖で五十鈴ファンが増加中だという。



五十鈴MVCの安城SSC

五十鈴の今昔物語はこれまでの歴史や新たな五十鈴の体制に関するもの、新たにグループになった浜松鋼板加工の敷地面積に関するものまで幅広いところからのクイズとなり、ベテランから若手までおおいに盛り上がった。会を終えて、来賓として参加していた菅英之介・日本製鉄薄板営業部長は次のようにコメントした。「毎回参加しているが、いつも楽しませてもらっている。普段はなかなか接点のない五十鈴建設のプレゼンは興味深かった」。メタルワンの佐久間匠執行役員は「仕事柄さまざまなコイルセンターを見る機会があるが、五十鈴は人の層が非常に厚いと感じる」とし、育成ぶりを評価した。